

ホクコービルダーフェルテラチェス粒剤

■種類名：クロラントラニプロール・ピメトロジン・プロベナゾール粒剤
 ■有効成分：クロラントラニプロール ----- 0.75%
 ピメトロジン ----- 3.0%
 プロベナゾール ----- 10.0%
 ■化管法指定物質：プロベナゾール [第1種] ----- 10.0%

■登録番号：第22905号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)
 ■登録初年：2011.03.16
 ■性状：類白色細粒
 ■有効年限：3年
 ■包装：1kg×12袋、10 kg×1袋

【特長】

- プロベナゾールを西日本型のいもち病発生にあわせた長期残効製剤としたビルダーと、殺虫成分フェルテラ、チェスの3種混合剤。
- フェルテラはフタオビコヤガ、コブノメイガなどのチョウ目害虫に、チェスはウンカ類に対して高い効果を発揮する。
- 育苗箱処理により、いもち病、ウンカ類、コブノメイガ、フタオビコヤガに対し、長期間、同時防除が可能である。

【適用内容】(2022年12月7日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数	
稲	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ウンカ類 コブノメイガ ツマグロヨコバイ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)	
稲 (箱育苗)	いもち病 ウンカ類 コブノメイガ ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、使用 土壌約5%) 1箱当り 50g	緑化期 ～移植 当日						育苗箱の 苗の上から 均一に 散布する。
	白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネツトムシ		移植 3日前 ～移植 当日						
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネツトムシ ウンカ類 コブノメイガ ツマグロヨコバイ	高密度に は種する場合 は1kg/10a (育苗箱(30 ×60×3cm、 使用土壌約5 %) 1箱当り 50～100g)							

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 育苗箱の苗の上から所定量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としのち、十分灌水すること。
 - ◆ 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
 - ◆ 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。

- ◆ 本剤処理後の苗を急激な乾燥が起こりやすい場所や温度変化が大きい場所で育苗した場合、薬害が生じるおそれがあるので、注意すること。
- ◆ 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- ◆ 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約 5L）1箱当りに乾粕として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
- ◆ 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- ◆ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深 3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- ◆ 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 専用の移植同時施肥機を用い、側条施用すること。
 - ◆ 移植後は湛水状態（湛水深 3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないように注意すること。
 - 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
 - 作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- ❖ 夏期高温時の使用を避けること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
 - 使用後は水管理に注意すること。
 - 器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。